



■IC周辺渋滞解消へ
国内でも有数の利用率となった久能山日本平スマートIC。一方で、周辺渋滞が恒常化。時差式や矢印で交通渋滞緩和へ。



■下大谷線の早期完成
大規模地震で駿河区が被災した際には最重要道路となる下大谷線。また、近隣住環境への対応と交通安全対策を進めている。



(図) 150号久能拡幅

■150号久能拡幅
駿河区大谷～清水区蛇塚の道路2車線を4車線化へ。用地取得は90%に。渋滞緩和と旧久能街道の安全の為、工事を推進。



■大谷小学校トイレ洋式化
令和5年度に工事着工。元校長先生からご依頼のあった保温便座化は令和6年度以降のトイレ改修工事で実施予定。



■最大の資源は日本平
静岡市のだ真ん中、600万坪を有する日本平。規制の網は政令市の特権を活かして改善すべき。世界に誇る資源を活かす。



■台風15号への対応
発災翌朝から地域を回り、被災状況を担当課に連絡。土砂災害の早期復旧を依頼。現在、町内と連携し災害予防策を実施中。



■旧大谷川排水ポンプ
台風15号発災時に旧排水ポンプが機能せず一部床下浸水が発生。河口部に新設した排水ポンプが令和5年度に供用が開始される。



■バリアフリートイレに
地元要望から令和4年末に完成。下島公園の長年の懸案が解決。誰もが安心して使用できる公園施設整備を進めています。



■大浜公園プール再整備
昨年8月をもって休業。リニューアルに向けた予算を可決。令和7年度オープンに向け整備開始。課題への対応に取り組む。



■清水港を市営港化へ
静岡清水の合併は福岡がモデル。港を活かした街づくりには市が港の管理を。他政令市の1/3が市営港。すべて黒字。

住所氏名等に変更等ございましたら、お手数ですが上記までお知らせください。

宮澤けいすけ議会レポート

今議席を頂いてから早2年が経過しました。今回は議会活動を通じてこれまでに「予算化された事業」や「改善された取り組み」を中心に報告させていただきます。「静岡市をもっと良くしよう」を掲げ、これからも議会活動に取り組んで参ります。本年度も変らぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

静岡市議会議員 宮澤 圭輔



■5大重点政策の1番目に「子ども・子育て環境の充実」
政令市初の第2子以降の保育料完全無償化が実現

令和3年6月議会

「子ども・子育て支援の充実で人口増加を」

きっかけは復帰後の初議会。本市は人口目標を放棄してから約8年間で人口は71万6千人から現在68万人台まで減少、年間出生数は僅か10年で5,830人から4,320人と年間1,500人も大幅に減少し、驚きました。

兵庫県明石市は公共投資650億円を先送りし、まずは子育て支援を重点的に取り組んだ結果、8年で中核市トップの人口増加、8年連続地価の上昇、税収増を実現。本市もまずは「子ども・子育て支援による人口減少対策を」と、明石市の「5つの無償化」と「子育て中心の街づくり」を政策提言。



令和4年6月議会

ハコモノより「子ども・子育て支援」を

計画中のハコモノ総事業費は約500億円。本市の「市民負担と行政サービスのあり方」という調査によれば「ハコモノ建設よりも、他の行政サービスを充実させて欲しい」

が最も高く、市民が子ども・子育てに関して充実を求める施策では、平成25年の調査以降、1位は「子育ての為の経済的支援の拡充」、2位は「子ども園や保育園等の費用負担の軽減」でした。

子育て支援で人口増加を実現している全国の自治体を調査。中でも保育料の無償化は効果が高いことを説明。

令和4年9月議会

将来を担う子どもたちへの投資は未来への投資

市民満足度調査(2013年～2021年)では15項目中13項目が低下。特に子育て満足度は53%から36%まで低下。この状況下でも令和5年度からの総合計画の重点施策に「子ども・子育て」の文字がない。重点政策に据えるべきと求めた。

令和5年2月議会

「子ども・子育て若者を取り巻く現状と課題」の3番目、「児童館や遊び場の拡充」。一方で児童館の配置計画は完了済みでも、アップデートの必要性に言及。



■人口減少をあきらめない

2020年、静岡市は全国1740の自治体のうち人口減少数はワースト13位。人口減少率は20政令市中ワースト1位、静岡県内35市町人口減少数ワースト1位、これが他都市と比較した現状です。「日本全体で人口が減るから仕方ない」は本当でしょうか？

全国でも1/4の自治体では人口が増加。20政令市中、1/3の政令市で人口は増加。静岡県も35市町中、12市町で人口は増加。その中でも、ふるさと納税の税収で子育て支援を始めた焼津市、先駆けて子育て支援に取り組んできた島田市。2022年の人口転入超過で焼津市が県内1位、3位が島田市でした。一方、転出超過は静岡市が1位。

小さな町だからできる、政令市だからできないは言い訳としか聞こえない。天下の徳川家康公が晩年の愛した静岡市は人が減って当然な地域でしょうか？

明石市はまさに政治の力で大きな成果を上げました。「静岡市もできる」を信じて取り組んで参ります。



【令和5年2月議会答弁】

- 子ども・子育ての施策のさらなる充実に向けて最優先に取り組むという強い思いを持ち、5大重点政策の1番目に「子ども・子育て」を位置付けた。
- 経済的負担の軽減。第2子保育料無償化の効果として、全額負担の世帯では年間39万円、半額負担では年間19万円の軽減効果が見込まれる。
- 明石市へ職員を派遣。プロジェクトチームを立ち上げ、明石市の様々な無償化施策や屋内遊び場の整備などの調査研究を実施。



※出典：静岡市「令和5年度 重点事業の概要」

【令和5年度予算と事業】

- ①「子育てしやすい環境の充実」を5大重点政策の1番初めに明記
- ② 政令市初の第2子以降の保育料完全無償化 6.9億円
- ③ 出産・子育て応援給付金給付事業 5.6億円 (新規)
- ④ 屋内遊び場施設整備調査研究事業 1,077万円 (新規)



遊び場イメージ (参考：明石市「子育て交流スペース ハレハレ」)

■「ふるさと納税の改善」

令和3年6月議会

「ふるさと納税課の設置」と「返礼品の公募」で令和2年度、焼津市では52億円の納税収入を確保。それを原資に「子育て世代の住宅購入費補助」や「子どもの遊び場を整備」。また焼津市は令和4年の県内35市町の転入超過数で1位を記録。

一方、静岡市では返礼品の取り扱いが平成28年から始まって以来、一度も返礼品の公募はされず、慢性的な赤字状態。そこで、返礼品の公募や担当課の設置を提案。

令和3年7月、9月に静岡市のふるさと納税制度始まって以来、返礼品の公募がおこなわれました。

【ふるさと納税に関する収支も改善】

返礼品公募前の令和2年のふるさと納税△2.3億、税控除適応額▲17億円（実負担4.5億円）が、公募開始後は、令和3年△4億円、令和4年は△8億円、令和5年では△15億の納税予定になりました。

【令和5年度】（新規）

- ① 返礼品の申し込みがいつでも可能になりました。
- ② 資金管理担当課長（ふるさと納税や基金運用などの資金調達に専念）の役職が新設されました。



（静岡市の返礼品（一部））

※返礼品のお問い合わせは、静岡市財政課ふるさと納税担当まで。（ふるさと納税で本市の宣伝と稼ぐ静岡市の実現を！）

■「静岡市ホームページのリニューアル」

令和4年2月議会

本市ホームページについて、市民や一部職員からも「見にくい」や「使いづらい」といった意見がある。また、ホームページの見やすさランキングでは20政令市中15位。

上位政令市のホームページでは市民が知りたい情報がトップに掲載され、イラストを用いて言葉もわかり易い。ホームページは本市の玄関口であって、市民が情報を得に来る場所です。平成18年から利用されている公式ホームページのリニューアルをしてはどうか？

【答弁】

ご指摘のとおりスマートフォンでは見づらいページがあることや、トップ画面から目的のページにたどり着くのが難しいページがあることなど、多くの課題が見えるため、全面的な改修も視野に入れた、リニューアルに向け検討を進めてまいります。

【令和5年度予算】（新規）

市公式ウェブサイトリニューアル事業 6,700万円



リニューアル後

- ・「静岡市らしさ」を感じるトップページにする。
- ・トップページから閲覧したいページにたどり着きやすくする。
- ・トップページから最下層のページまで一貫したデザイン（色、文字フォント）とする。

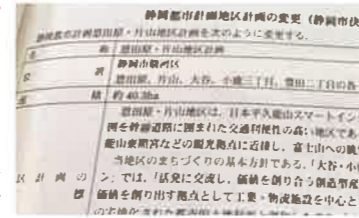
現 静岡市公式ウェブサイト トップページ

■大谷小鹿区画整理事業の推進

令和3・4年度

大谷小鹿まちづくりの整備やスマートインターチェンジの開通に伴い、大谷地域では空き地に住宅が建ち、学区の人口増加数は市内トップレベル。今後の静岡市をけん引していく地域となるよう、議会でも支えています。

□令和3年度、都市計画審議員として「片山恩田原地区の地区計画の変更」と「宮川水上地区の市街化区域編入について」の決定を行いました。



□令和5年2月、区画整理事業で投資した市補助金は税金として最低でも25年で回収できる事業である。一方で、事業開始から完了まで10年以上の月日を要することが課題と捉え、会派として「本市においては民間事業者がスピード感を持って事業を進められるよう、予算の前倒し」を求める要望をしました。



【令和5年度予算】

恩田原・片山土地地区画整理事業費助成ほか4.4億円
宮川・水上土地地区画整理事業費助成ほか2,300万円

■中学校にエレベーター設置の扉が開く

令和4年度 市民環境教育委員会

8月、交通事故や先天性の病気により、足の不自由な児童とそのご家族から要望を受けました。要望内容はただ一つ「進学先の中学校にエレベーターが無く、このままでは通えない。同級生と一緒に普通に進学したい」。他の政令市（京都市や大阪市）ではエレベーター設置率がほぼ100%であるのに対し、葵区・駿河区の中学校にエレベーターが1台もありませんでした。この現状を踏まえ、誰もが当たり前に通える教育環境の整備を求め、全委員からエレベーター設置に対する要望がなされました。

今後も誰もが安心して通える教育環境の整備を進めて参ります。

市民環境教育委員長 宮澤圭輔

【令和5年度予算】（新規）

城内中学校エレベーター等整備事業（地質調査・設計）3,640万円

■学校・教育関連の質問

- 学校給食の無償化（令和3年6月、4年6月議会）本市に導入した場合の予算と規模を説明
- 教育施設への投資を求めて（令和5年2月議会）大阪府箕面市では洋式トイレやエレベーター、全教室にエアコンの設置など教育環境の充実で子育て世代の増加へ。新設された小中一貫校は僅か10年で全国一の児童数に。教育投資は移住にも効果あり。



■浜川水門の耐震化と護岸の工事で、レベル1津波の浸水区域が消滅

令和3年6月議会

東日本大震災が起きた2011年6月議会で浜川水門の耐震性に問題があると指摘。浜川水門の耐震化工事と護岸の嵩上げを求め、2015年に着工。2021年（令和3年6月）に完了しました。

【令和3年まで】 総工事費6.7億円



静岡県の海岸堤防の補強工事と本工事により、100年に一度のレベルの津波に対して周辺の津波浸水想定区域がゼロになりました。

護岸改良の整備前と整備後の津波浸水面積（駿河区内） 単位 km²

レベル1（100年に一度のレベル）		津波来襲時		
浸水深	整備前	整備後	増減	
1m未満	0.1	0	-0.1	
1m以上 2m未満	0.2	0	-0.2	
2m以上 5m未満	0.3	0	-0.3	
5m未満 10m以上	0	0	0	
10m以上	0	0	0	
合計	0.6	0	-0.6	

出典 レベル1津波対策の施設整備による減災効果（静岡県）

※注 レベル1 地震・津波 M8.0～M8.7（1854年安政地震級）発生間隔100～150年程度

防災対策の進捗に合わせ、近隣には若いご家庭が移り住み、新築住宅も増えてきました。今後も安心・安全なまちづくりを進めて参ります。

■国登録有形文化財「旧マッケンジー住宅」再生活用事業

令和3・4年度

旧マッケンジー住宅の老朽化に伴い、地元から「旧マッケンジー住宅の保全と利活用を求める要望書」が静岡市に提出されました。令和4年3月には旧乳児院の解体撤去が進み、6月には各町内会経由で周辺を含めた利活用についてアンケートを実施。いよいよ令和5年より取り組みが始まります。

【令和5年度予算】（新規）6,500万円

- 1 静岡市名誉市民第1号のエミリー・M・マッケンジーの居宅であり、著名なヴォーリス建築の一つである旧マッケンジー住宅の大規模改修を実施
- 2 隣接する公共用地を含めたエリア一帯で民間活力を導入して整備、地域の活性化を推進（令和5年事業者公募、7年周辺活用開始）



周辺活用想定エリア



旧マッケンジー住宅外観